

目 次

- ② 特集「魅力ある『島の福祉』で人材確保『地域』の熱が新たな福祉人を引き寄せる!!」
- ④ THANKS(サンクス)運動関連記事「子どもの居場所からはじまる支え合いのネットワークづくり」他
- ⑤ シリーズ記事「ふくし&OO」第3回「ふくし&研究者」
- ⑥ 全社協会長表彰・中央共同募金会会長表彰伝達式 他
- ⑦ 生命保険協会物品贈呈式の報告、新しく仲間入りする福祉用具のご紹介
- ⑧ 長寿大学校学習発表会の報告、シニア活動実践セミナーの報告
- ⑨ 第11回沖縄ねりんピックかりゆし美術展・第33回全国健康福祉祭ぎふ大会 美術展出品作品選考会
- ⑩ 赤い羽根共同募金等へ寄せられたご寄付の紹介 他
- ⑫ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 他



作品名:「乾漆螺鈿花器」(第10回沖縄ねりんピックかりゆし美術展 沖縄県知事賞)
 作成者:津波 敏雄さん(南城市)



広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に
 共同募金配分金を充てております。

魅力ある「島の福祉」で人材確保

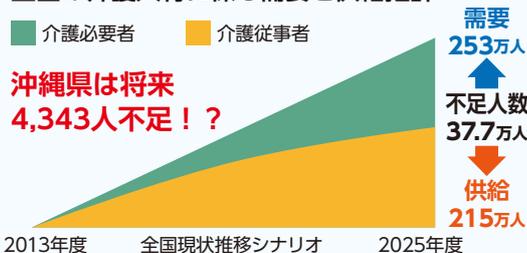
「地域」の熱が新たな福祉人を引き寄せる!!

沖縄における
福祉分野での
人材不足の状況

我が国では、少子高齢化と人口減少を背景に、65歳以上の高齢者人口が2025年までは急増し、2040年のピークに向けては緩やかに増加していくことが見込まれています。2040年には、高齢者人口は全人口の3分の1以上を占めると想定され、介護サービスの需要の拡大と供給量の不均衡が大きな課題となつています。

2025年に向けた介護人材の需給推計をみると、今後ますます介護のニーズが高まり、全国で37・7万人、沖縄県では、4,343人の介護人材が不足すると見込まれています。(図1参照)

全国の介護人材に係る需要と供給推計



▲図1:厚生労働省「2025年介護人材に係る需要推計確定値(H27.6.24発表)」より

一方で、共働き世帯の増加による保育ニーズの増大もあり、保育の受け皿整備に向けて、保育人材の確保も早急な課題となっています。

産業を問わず人材不足が大きな問題となっている中、特に福祉分野では人材確保難の状況が続いています。令和元年11月の沖縄県における有効求人倍率は、全体(全職種)で1・21倍のところ、福祉関連職業では2・40倍と高くなっており昨年同時期の2・21倍

と比べても上昇しています。

こうした中、さらに福祉人材の確保が課題となっているのが、離島過疎地域です。県社協では、離島過疎地域の福祉人材確保のため、「沖縄県離島・過疎地域における福祉人材確保に向けた移住促進支援事業」を実施し、土地と人、福祉の魅力を伝える取り組みを進めています。

離島・過疎地域の人材確保

沖縄県福祉人材研修センターでの取組み
沖縄県離島・過疎地域における福祉人材確保に向けた移住促進支援事業

保においては、立地的・資源的な背景による課題もあり、従来の考え方や施策だけではなく、新たな取り組みが必要となっています。本事業では、離島・過疎地域の特色である、

「人口が少なく、小さなコミュニティだからこそできる福祉実践」を県内外に広くアピールし、福祉だからこそ展開できる人材の確保について取り組んできました。

1 地域内の

福祉×移住×チームづくり

昨年度より2年間の事業として始まった本事業の特色の一つに、市町村行政(移住担当部署、福祉担当部署)と地域の社会福祉法人(市町村社協を含む)が一体となって取り組んでいる点が挙げられます。

1年目は「事業説明&オープニングセミナー」を実施し、モデル地域を募集しました。その後、「島の福祉PRパンフレット作成」「県社協合同説明会・面接会 離島ブースとしての出展」「島の福祉PRイベント(東京)」を実施し、各地域内の福祉×移住のチームづくりと、そのチームでの行動実績づくりを行いました。

特に力を入れたのが、「島の



▲「衣食住遊 離島をめぐる島の地域福祉マップ」(伊平屋島編)

福祉PRパンフレット作成」です。モデル地域となった伊平屋島・西表島・石垣島・久米島の4島で、島の皆さんが「編集委員」としてアイデア出しや取材に取り組み、島の暮らしや地域福祉を紹介する冊子「衣食住遊 離島をめぐる島の地域福祉マップ」を作成しました。島の福祉の魅力が詰まった冊子をもとに、東京でのPRイベントを実施。各島の食を楽しみながらプレゼンテーションし、島への移住を考える方々との出会いと手ごたえを持ち帰ることができました。

2年目となる今年度は、伊

2 福祉×移住の 体験ツアーの実施

平屋島・石垣島・西表島を訪
問し、実際に各地域に移住希
望の福祉従事者を招き、暮ら
しや福祉を体験してもらう
「福祉×移住の体験ツアー」の
企画や事業終了後の取組みに
ついて考えるワークショップ
研修を行いました。また、今年
度から国頭村も加わり、4地
域、チームごとに検討した、暮
らしや食、人、福祉を体感する
2泊3日の体験ツアーを現地
の方々に関わってもらいな
がら実施しました。



▲石垣島ツアー おばあとのふれあいでみんな笑顔に!

参加者からは、「島の人の



▲伊平屋島ツアーナイトBBQのあとは、地元の“星空王子”(自動車整備士)による星空集合写真

交流、伝統行事への参加、島の
自然を感じたことが一番印象
的だった」という声があり、福
祉従事者というところもあり、
島の人のコミュニケーション
に魅力を感じた人が多かつ
たようです。また、施設訪問は
見学や交流だけでなく、現場
での実習体験が求められてお
り、「インターンシップやワー
キングホリデーなどへ繋がる
ような仕組みが欲しい」との
声もありました。その他、移住
に向け一番の課題となるのが
「住宅問題」です。行政の移住
定住住宅の利用など、福祉法
人だけではなく、地域全体と
しての受け入れ協力体制づく
りを引き続き行うことが重要
だと感じました。

全ツアー合わせて23組35名

(うち子ども7名)の方が参加
し、ツアー実施後に移住者・
移住予定者が4名、再来島予
定者が4組、ワーキングホリ
デーとして参加予定の方が3
名となりました。貴重な福祉
人材として島での暮らしを考
え、文化・環境を肌で感じ、島
の人たちとのふれあいを楽し
むツアーとなったのではない
でしょうか。



▲国頭村ツアー 職員交流会の会場を飾る
“マーニ編み”を一緒に作成!

3 今後の取組み

各地域のツアー終了後は、
参加地域合同で振り返りの
ワークショップを行います
た。離島山間部という似たよ

うな環境・課題の中で、「お互
いに連携する場が欲しい」と
いう参加地域からの声もあ
り、各ツアーの内容紹介や、移
住に導くための情報交換を行
いました。

また、島の福祉PRイベン
トを今年度は沖縄本島で実施
し、那覇近郊に住んでいる方
や観光客に向けて「福祉×移
住」の魅力を感じてもらいま
した。

本事業は今年度で終了と
なりますが、今回築き上げた
「福祉×移住」チームによる地
域内の新たな連携が生まれ
ています。若手島民による移
住促進チームの結成や、市町
村事業として県地域・離島
課の実施する移住定住促進
事業の活用、移住協議会の再
始動のほか、移住イベントで
の福祉職のPRなど、様々な
取り組みが各地域で予定さ
れています。

本会としても、各地域の
フォローアップを行いなが
ら、本事業を通して生まれ
た、県地域・離島課やふるさ
と回帰支援センターとの連
携を活用し、「福祉×移住」の

視点を取り入れた離島過疎
地域の人材確保に取り組ん
でいく予定です。



▲島の福祉PRイベント@豊見城
「食」をつまみに「福祉×移住」の魅力を伝えます!



▲西表島ツアー 島の森の中をトレッキング。亜熱帯の動植物に
囲まれ、自然を感じる参加者

「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサンクス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。サンクス運動関連記事では、そんな活動に活躍する団体や人物を紹介いたします。

子どもの居場所からはじまる支え合いのネットワークづくり
～沖縄県子どもの居場所ネットワーク事業を通して～

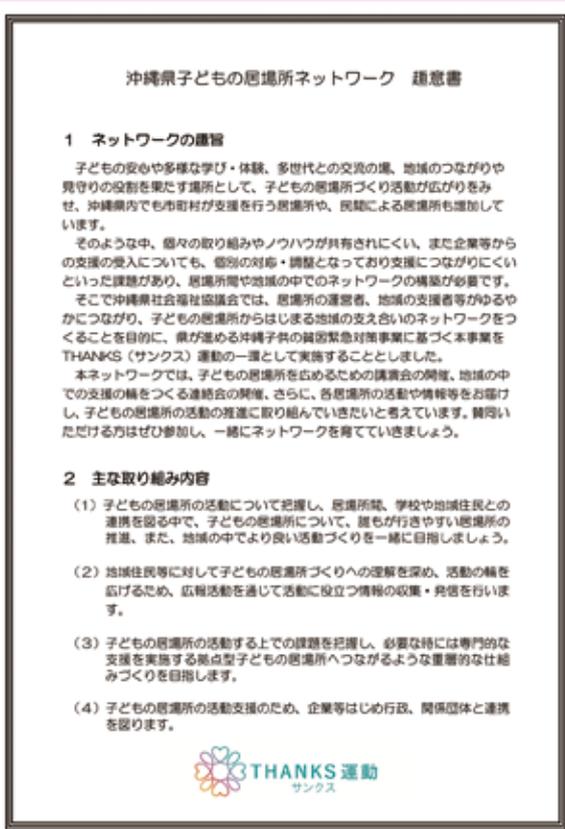
沖縄県における子どもの居場所（以下「居場所」という）は、市町村や民間団体の工夫により190ヶ所29市町村と、取り組みが広がりをみせています。（令和元年10月1日時点県の調査結果）

県社協では、THANKS（サンクス）運動の一環として、居場所の活動強化や居場所間や学校、地域の支援者等とのネットワークの推進を図るため令和元年に「沖縄県子どもの居場所ネットワーク事業」（以下「本ネットワーク」という）をスタートしました。

本ネットワークでは居場所の活動に

ついて課題整理や、解決に向けた取り組みについて協議・検討する「支援等検討会」の設置や、居場所と学校の連携促進に向けた講演会の開催、活動事例・助成金情報等の提供、企業等からの支援調整等、居場所の活動推進に取り組んでいます。

昨年、12月には本ネットワークに係る趣意書及び規約を制定し、1月末現在で40ヶ所（19市町村）の居場所が本ネットワークに参加しています。子どもの安心や地域の繋がりが、そして見守りの強化を図る為、一緒に支え合い活動推進に取り組んでいきたいと思います。



沖縄県子どもの居場所ネットワーク趣意書

本ネットワークに関するお問い合わせ
☎098-887-2000(地域福祉部)

FMぎのわんの取り組み

平成26年5月に設立された「FMぎのわん」は、音楽や教育、時には野外から中継を行う等、多彩な番組を毎日放送しており、近年、防災活動にも力を入れています。

数年前に立ち上げた防災番組に、宜野湾市社会福祉協議会の職員が出演したことをきっかけに、市社協との連携が始まりました。

これまで、地域福祉活動について話し合う「ちいきづくり塾」への参加、そして、市社協と住民との共同企画「広報人材育成プロジェクト」も手掛けてきたとのこと。

このような地域福祉活動への取り組みを通して、代表取締役の山内一郎氏は「市社協や地域住民と連携することで、自治会や民生委員さんとの繋がりが、地域住民と信頼関係を築くことができた」と、活動の成果を語られました。

また、「防災」と「地域づくり」は切っても切り離せないとの考えから、台風時には24時間体制で地域情報を発信するなど防災・減災活動にも貢献しています。災害時におけるコミュニケーションの役割については「地域情



▲FMぎのわん代表取締役 山内 一郎 氏

報を伝えることが大切だ」とも語られました。山内氏は「もっと地域の方々へ番組を聞いてもらえるようになることが課題の一つである。これからも地域福祉活動に参加し、地域に根差す会社となれるよう精進していきたい」と抱負を語られました。



ふくし & 〇〇

このコーナーでは、地域福祉を応援する様々な取り組みを紹介いたします！

第3回

ふくし & 研究者

かみざとと社会福祉研究所主宰である神里博武氏より、県社協へ約1万6千冊もの本の寄贈があり、その思いについてお話を伺いました。

寄贈をした思いについて聞かせてください。

神里：今回、社会福祉や福祉教育等に關する分野の書籍・資料を多く寄贈させていただきました。

社会福祉分野は、社会福祉協議会等が行う社会福祉事業に、地域福祉や福祉教育等の分野においては、普段の生活やコミュニティづくりに活かしてほしいと思います。

国の動向や制度について学ぶのも大切ですが、「足元に泉がある」というニーチェの言葉にあるように「沖繩に根差した地域福祉」を考え、実践して頂けると嬉しく思います。

本誌の読み手の皆さんへメッセージを願います。

神里：社会福祉・地域福祉とは、自分の生活に直結しています。

将来の進路を考えることにも役立つと思いますので、福祉にまだ携わっていない方々にも、福祉への入口として、手に取っていただければと思います。

※寄贈して頂きました本は、県総合福祉センター西棟2階の「社会福祉ライブラリー」にて、館内閲覧できます。



かみざとと社会福祉研究所 主宰 神里 博武 氏



平成31年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度	
傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円	

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
補償本A型	定員 1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用B型	基本補償(A型) 保険料	+
	[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円	



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償 (改定)
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

令和元年度

全国社会福祉協議会会長表彰・

中央共同募金会会長表彰合同伝達式開催

県社協・県共募では、12月17日に県総合福祉センターにて「令和元年度全国社会福祉協議会会長表彰・中央共同募金会会長表彰合同伝達式」を開催しました。

去る11月22日に東京で開催された全国社会福祉大会に出席がかなわなかった本県の受賞者に対して、湧川昌秀県社協・県共募会長から伝達を行いました。

今年度の全国社会福祉協議会会長表彰は、民生委員・児童委員功労4名、社会福祉法人・福祉施設功労4名、社協・民間社会福祉団体功労5名、永年勤続功労30名、社協優良活動1団体、感謝1名の合計44名1団体が受賞しました。

また、中央共同募金会会長表彰は、奉仕功労者2名、優良地区・団体1団体、従事功労者1名の合計3名1団体が受賞しました。

伝達式では、湧川会長から、「皆様の御功績が必ずや関係者のお手本、励みとなり、多くの後輩が引き継いでいくものと確信しております」と受賞者に対する祝福の言葉が述べられました。

また、受賞者を代表して、社会福祉法人沖縄県社会福祉事業団理事長の金城敏彦氏（社会福祉法人・福祉施設功労）から「少子高齢化の今だからこそ地域共生社会が必要で、培った知識や経験を發揮して貢献していきたい」と今後の抱負や、受賞の喜び、そして関係者等への感謝の言葉などの謝辞が述べら

れた。



▲代表あいさつをする金城敏彦氏

当日は全国大会出席者にも参加いただきました。また、閉会後には、受賞者と列席者が記念撮影を行うなど、終始和やかな雰囲気で行われ、式典が執り行われました。



▲全社協会長表彰・中央共同募金会会長表彰受賞者

第37回 沖縄県児童養護研究大会を開催

沖縄県児童養護協議会は、去る12月13日（金）県総合福祉センターにおいて、「第37回 沖縄県児童養護研究大会」を開催しました。

本研究大会は県内の児童福祉関係者が一堂に会し、様々な背景や課題を抱えた児童に適切に対応するための支援や今後の社会的養育のあり方等について学び、児童の健全な育成と自立に向けた取り組みの強化に資することを目的に毎年開催しています。

行政説明では、県青少年・子ども家庭課児童育成班班長の渡久山和之氏より、沖縄県社会的養育推進計画（素案）の策定状況や自立支援にむけた取り組み等の動向について説明がなされました。

また、日本心理研修センター理事長／大正大学名誉・客員教授の村瀬嘉代子氏を講師に迎え、「子どもに寄り添う支援とは」と題し、講演が行われました。心理治療と日常生活でのアプローチの連動が児童の治癒と成長に結びつ

くこと、専門職として児童の背景や状態に焦点を当て、柔軟な対応を行うことが「寄り添う支援」に繋がること等を御講義いただきました。

各研究部会では、『子どもへの自立に向けた支援のあり方』とは、『食育の大切さを学ぶ』と『日々のいとなみから「養育」を考える』をテーマに児童福祉施設の実践報告やグループワーク等を行い、専門家からの助言や情報交換を通し、参加者の知識・技術の向上を図ることができました。



▲研究部会の様子

生命保険協会沖縄県協会 福祉巡回車、AED、福祉物品等を寄贈

12月17日県総合福祉センターにて、「生命保険協会沖縄県協会福祉巡回車、AED、福祉物品(ラベルプリンター、足踏み型シーラー、デジタルカメラ)寄贈式」が行われました。

生命保険協会沖縄県協会根笹靖会長からは「日頃より大変お世話になっていられる地域の皆様にも少しでもお役に立てるよう、今後とも地域貢献活動を推進していきます」と挨拶がありました。

また福祉巡回車の寄贈を受けた南大東村社会福祉協議会の濱里良直会長から「訪問介護や日常生活自立支援事業などの新規事業に役立て、地域福祉の発展に取り組みます」とお礼がありました。

生命保険協会沖縄県協会では、毎年、CR活動(企業による地域貢献活動)の一環として寄贈を行っています。

- 【寄贈内容】
- ◎福祉巡回車(南大東村社協)
 - ◎AED(久米島町社協)
 - ◎ラベルプリンター(一般社



▲寄贈車両

市町村社協、障がい者支援団体

【寄贈先】

- ◎平成4年度
福祉巡回車47台
 - ◎平成20年度
AED13台
 - 福祉物品36団体
- 【寄贈実績】
- ◎平成4年度
福祉巡回車47台
 - ◎平成20年度
AED13台
 - 福祉物品36団体

団法人むら ワーカースホーム

- ◎足踏み型シーラー(合同会社ステップ 就労継続支援A型事業所ステップ)
- ◎デジタルカメラ(特定非常利活動法人すずな)

新しく仲間入りする福祉用具のご紹介

排泄関連用品 / 株式会社 リブドゥコーポレーション

スマートフィットテープ止めタイプM

パット押さえギャザーでモシ・ズレを徹底防止。からだに寄り添う薄型吸収体。前後と足まわりのギャザー。センターラインとおしゃれなチェック柄。

超うす安心パッド120cc

吸水帯に厚みとなる綿状パルプを使用せず吸水ポリマーのみで構成しているため非常にうすく、つけていないような心地よさ。

はくパンツ下着のようなページタイプM

ページ色なので、淡い色のズボンでも透けにくい。うす型吸収体と股下すっきりカットを採用しているため軽やかな装着感を実現。お腹ゆったり設計でしめつけないので、やわらかく、はきやすい。

スマートキャッチパッドタイプ6回分

装着の違和感を極限まで抑えた、動きを阻害しない長時間、夜間用のパッドタイプ。さらさらドライ吸収体が尿をしっかりキャッチ。

超うす安心パッド男性用80cc

超うす安心パッド(女性用)で支持されている“超うす吸収体”を採用し、つけ心地の良さを実現。男性が持ち歩きやすいスタイリッシュなデザイン。

はくパンツ用やわらかびったりパッドレギュラー

マーク入りで前後がわかりやすい。前後にあるくつきテープが紙パンツにびったりついて、パッドのズレを防ぐ。はくパンツとあわせて使うとさらにモレ安心。

簡単テープ止めタイプ横もれ防止SS

ベビー用おむつと大人用おむつの一番の差は「股上」。これまで「ベビー用では小さく大人用では大きい」と思われていた小柄な方にピッタリのサイズ。

へんしん自在ピタタッチパンツML

お腹まわりが開閉するので、尿パッドの交換も簡単。テープをつけた後もパンツのように上げ下げできる。昼でも夜でも使える進化したパンツ。

おむつ・パッドの
サンプルあります

靴・靴下 / 徳武産業 株式会社

ダブルマジックⅢ合皮★

大きく開くので足入れしやすい。シンプルなデザインなので冠婚葬祭にも。軽量化とクッション性を高めた靴底。

ダブルマジックⅢニット(ピンク細)★

1足ずつ編み上げたニットのやさしい風合い。また、むくみがあるときもベルトで簡単調節可能。

Re-Life、サポート02(3E)

大きく開いて脱ぎ履きしやすい「装具対応シューズ」装具側中敷は完全フラット仕様。マジックでしっかり固定。着脱しやすいベルト方向。調整中敷付。

快適汗プロテクト

よく伸びて履きやすい。装具があたる部分を保護。汗を吸収するサラッと快適素材。※装具はついておりません。

GBストレッチ★

折り返しベルトでしっかりフィット。縦と横のアーチを足裏からしっかりとサポートするおしゃれな紫のこだわりのインソールを採用。(幅広)

ダブルマジックⅢ(グレー系)★

1足ずつ編み上げたニットのやさしい風合い。また、むくみがあるときもベルトで簡単調節可能。

Re-Life、サポート02(7E)

大きく開いて脱ぎ履きしやすい「装具対応シューズ」装具側中敷は完全フラット仕様。マジックでしっかり固定。着脱しやすいベルト方向(7Eは内側開閉)。調整中敷付。

あゆめケアウォーク

糖尿病初期段階や予備軍の方が靴ずれなどにより足へのダメージを受けにくいよう足幅をゆったり設計。

マジックゴムバンド優(グリーン・ブルー)

気持ちのよくなる花柄生地。食い込みにくい履き口ラインと締め付けにくい安定感のあるゴムベルトを採用。

あゆみが作った靴下(のびのび)

伸縮性に優れ、腫れやむくみにも対応。縫い目が外にあり肌に当たらない。かかとがないので尖足の方や変形のある方もゆったり履ける。就寝時最最適。

靴の試し履きできます *靴下の着用をお願いします

沖縄県介護実習・普及センター

TEL : 098(882)1484 FAX : 098(882)1486

常設展示場の福祉用具は全て展示のみです。取扱事業所を紹介しています。

沖縄県かりゆし長寿大学校
第28回 学習発表会

1月30日、県総合福祉センターにおいて沖縄県かりゆし長寿大学校学習発表会が行われました。

学科展示の部では、講義内で作った作品や学んだ内容を、学生の皆さんが写真を交えてわかりやすく紹介していました。



▲学科展示
(木)地域文化学科



▲「ある日のかりゆし
デイサービス」

舞台発表の部では、寸劇や踊り、歌などで各学科で学んだ事を表現。衣装や小道具を準備し、オリジナルの台本を作って行われた発表に、会場からは笑いや拍手が湧きあが

り来場者からは「各学科とも特徴があり、すごく興味深かった」「とても楽しそうで、自分も長寿大学校に入学したい」などの感想が寄せられました。



▲陶芸クラブ

センター内では、6つのクラブ活動(陶芸、園芸、写真書道、漢方・薬草、絵画)の工夫を凝らした作品展示も行われ、1年の活動で得た技術等を見事に表現していました。

学習発表会を終えた、学生からは「みんな生きいきして、笑いありでとても楽しい学習発表会だった」「発表会を通して、全体の絆が深まった」などの感想が聞かれました。

年齢や地域の垣根を越え、人生経験豊かな学生が集まった、かりゆし長寿大学校ならではの素晴らしい学習発表会となりました。

令和元年度 シニア活動実践セミナー

県社協・いきいき長寿センターでは1月14日、地域活動参加促進や健康保持・増進を目的に、「笑いヨガ(笑いの力であなたの老後を楽しく、健康に過ごそう)」と題して、沖縄県総合福祉センターにてシニア活動実践セミナーを開催しました。



▲「濱元氏より講話」

国際認定笑いヨガティーチャーの濱元洋子氏を講師に招き、前半は笑いヨガの効用、実践方法について説明が行われました。また、作り笑いでも本物の笑いと同じ効果が得られるとの話に、参加者からは「作り笑いでいいなら、日

常生活で気軽にできる」「一人暮らしの自分に合っている」等の声が聞かれました。

後半では、濱元氏と5名のボランティアスタッフが交え、実践が行われました。最初は少し恥ずかしそうにしていた参加者もいましたが、講師のユーモアを交えた説明や、動きを入れながらの実践に緊張もほぐれ、会場は大きな笑い声に包まれました。また、笑いヨガを始めてから体重が10kg減ったというスタッフの話に「家に帰ったらすぐ家族に教えたい」「今日から毎日実践します」等の声が聞かれました。



▲「笑いヨガ 実践」

講義を終えて「良い汗をかいた」「初めて笑いヨガをしたが、とても楽しかった」と、笑顔で帰る参加者が多くいました。講義後のアンケートでは「地域の笑いヨガサークルに、ぜひ参加したい」「今回の講座で笑いに対する意識を高めることができた」「最近落ち込むことが多かったのですが、笑いヨガに参加して少し笑っただけで胸がすっきりし、涙が自然と出てきました。体も心も、とてもすっきりしました」等、参加して良かった、今後も継続して笑いヨガを実践したいという感想が多く寄せられました。



▲「笑いヨガ 握手笑い」

第11回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展
第33回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2020)

美術展出品作品選考会

高齢者の芸術文化活動を通じた社会参加の促進を目的として、「第11回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」が令和元年12月3日から8日まで沖縄県立博物館・美術館で開催されました。(主催：沖縄県・社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会) 会場には、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門の計259点と全国健康福祉祭和歌山大会受賞作品1点が展示され、開催期間6日間で県内外から延べ3006人の来場者がありました。



▲テープカット(左から呉屋純媛さん、西村審査員長、湧川会長、安里県子ども生活福祉部副参事、野浦充さん)

オープニング・表彰式

初日のオープニングセレモニーでは、主催者代表として県子ども生活福祉部 安里栄作副参事、県社協湧川昌秀会長、かりゆし美術展西村貞雄審査員長並びに出品者代表 呉屋純媛氏(沖縄県知事賞)、野浦充氏(かりゆし賞)の2名を含めたテープカットが行われました。

表彰式は同館3階講堂で執り行い、全受賞者56名に表彰状が授与され、沖縄県知事賞・金賞受賞者には合わせて記念品の楯が贈られました。



▲表彰式の様子

かりゆし美術展受賞者

【沖縄県知事賞】

書部門・呉屋純媛／作品名「年年有餘」



▲沖縄県知事賞受賞作品

【金賞】

洋画部門・國吉清／彫刻部門・盛山浩道／工芸部門・潮平浩／書部門・新里敏子／写真部門・國吉克哉(以上5名)

【銀賞】

日本画部門・榮野川盛治、金城幸子／洋画部門・平得光雄、国吉圭子／彫刻部門・漢那憲次／工芸部門・石垣京子、岸本秋子／書部門・真栄城徳喜／写真部門・當山清裕、諸見里安吉(以上10名)

【銅賞】

日本画部門・比嘉勝子、島袋久美子、城間悦子／洋画部門・金城睦雄、池宮秀和、千葉友子／工芸部門・上西吉晴、松井美代子、渡嘉敷

緩勝／書部門・松田房子、大城正夫、真栄田義之／写真部門・上原美代子、玉城正一、国吉稔(以上15名)



会期中の様子

【奨励賞】

日本画部門・宇地原初子、大嶺清徳、伊藝スミ子／洋画部門・玉城光江、知

和歌山大会受賞者

【銀賞】書部門・新垣恵津子
作品名「李太白詩」

念盛一、島袋清美、大城尚子／工芸部門・野原君子、出納幸人、粟国安信、大屋カズエ／書部門・眞玉橋三郎、金城敏子、渡口昇榮、下門重隆／写真部門・上原修、伊藤俊雄、我喜屋功(以上18名)

【かりゆし賞】洋画部門・野浦充、岸本瑞江、山城芳子、與儀尚子／工芸部門・平良ツル子／書部門・豊岡一夫／写真部門・山口慎之介(以上7名)
※今年度受賞した各部門の上位2作品は、来年度岐阜県にて開催される「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会美術展」へ沖縄県代表として出品する予定。



◀和歌山大会銀賞作品

赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金・りゅうちゃん子どもの希望募金へ



寄せられたご寄付の紹介



(※沖縄県共同募金会受付分)

たくさんの方々の心温まるご支援・ご協力、本当にありがとうございます!

赤い羽根共同募金



琉鵬会様
(歳末たすけあい募金含む)



沖縄県金融協会様



株式会社琉球銀行様
(歳末たすけあい募金含む)



(公財)農林水産団体共済会様



株式会社サンエー様



株式会社沖縄銀行様
(歳末たすけあい募金含む)

歳末たすけあい募金



沖縄明治乳業株式会社様



オキコ株式会社様



沖縄銀行労働組合様



沖縄製粉株式会社様



公益社団法人 久米国鼎会様



一般社団法人 沖縄県洋菓子協会様



さくら保育園様



第46回メサイア演奏会実行委員会様



株式会社 丸大様



沖縄県歯科医師会様



沖縄セルラー電話株式会社様



沖縄県ボウリング場協会様

りゅうちゃん子どもの希望募金



アーティスト 池原颯人様

**NHK歳末たすけあい募金
56施設・団体へ
配分しました**

12月1日から31日まで実施したNHK歳末たすけあい運動は、たくさんの県民、企業団体から心温まる御寄付が寄せられました。

NHK歳末たすけあい募金（本会受付分）にいただいた浄財は、県内43団体への助成金、児童養護施設（8施設）の就学・就職に必要な支度金、県内7市町村へ一人暮らしの高齢者、生活困窮者への見舞金、合計547万5千円を配分しました。ご協力いただきありがとうございました。

詳しくは本会ホームページをご覧ください。（左記のQRコードからもご覧いただけます）



令和3年度（一部令和2年度）民間福祉資金 募集概要

資金種別	対象年度	対象事業	対象団体
中央競馬馬主社会福祉財団	令和2年度	障がい者（児）・老人・母子及び児童福祉事業にかかる車両整備・備品整備・施設整備など	社会福祉法人（市町村社協は原則対象外）、公益財団法人、公益財団法人、NPO等
赤い羽根共同募金（一般）	令和3年度	地域の福祉課題を解決する為の事業で、厚生保護事業、研修会、大会開催・派遣等、施設・環境・車両・備品整備など	社会福祉法人 公益法人 一般社団・財団法人 NPO等
沖縄県社会福祉振興基金	令和3年度	施設・環境整備、機器・備品等購入、研修事業、在宅福祉等の普及・向上、その他高齢者福祉の推進等	社会福祉法人（市町村社協を除く）、公益法人、一般社団・財団法人、NPO等

民間福祉資金の効率的活用を図るため、令和3年度（一部令和2年度）に各福祉団体が計画している事業に係る、民間福祉資金要望書を沖縄県共同募金会が窓口となり受付します。（概要は左記表のとおり）

要望調査の申請受付にあたっては、3月下旬より沖縄県共同募金会ホームページに詳細を掲載しますのでご確認ください。（※提出期限は令和2年5月1日予定。）

令和3年度事業（一部令和2年度）に要する「民間福祉資金要望書」の受付について

寄付・寄贈者芳名 (12月1日~1月31日) 御寄付・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。

※本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで



▲株式会社サンレー様(12.11)
【写真左から2番目】株式会社サンレー
取締役沖縄本部長 小久保 達美 様
【写真左から1番目】同社 総務課課長 横木 大輔 様
【写真右から2番目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会様(12.6)
【写真最前列左から3番目】
一般社団法人 沖縄県軍用地等地主会連合会
会長 眞喜志 康明 様
【写真最前列右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲エヌエヌ生命保険株式会社様(12.3)
【写真左から2番目】エヌエヌ生命保険株式会社
西日本エリア営業統括部長 外間 裕司 様
【写真左から1番目】同社 沖縄営業部 営業部長 片岡 寛 様
【写真右から2番目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1番目】本会 事務局長 高良 正樹



▲オリオンビール株式会社様(12.26)
【写真左から2番目】オリオンビール株式会社
専務執行役員人事総務本部長 外間 修 様
【写真左から1番目】同社 総務課長 大嶺 盛男 様
【写真左から1番目】児童養護施設 愛隣園
施設長 上江洲 肇 様
【写真左から2番目】本会 会長 湧川 昌秀



▲日本生命労働組合那覇支部様(12.13)
【写真中央】日本生命労働組合那覇支部
委員長 竹本 伸介 様
【写真左】同組合 書記長 白瀧 裕紀 様
【写真右】本会 常務理事 嘉陽 孝治



▲おきでんグループボランティア互助会様(12.12)
【写真左から2番目】おきでんグループボランティア互助会
理事長 徳村 勇人 様
【写真左から1番目】同会 書記会計 宮城 調伸 様
【写真右から2番目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

社会福祉ライブラリーから 本の紹介



みんなのバリアフリー①
『心のバリアフリーってなんだろう?』

著者：徳田 克己
出版社：あかね書房

この本は、自分たちでできるバリアフリーをいっしょに学んでいく本です。1巻では社会にある障害や障害のある人に気づいているか、身構えたり、見て見ぬふりをしていないか、そんな「心のバリア」への気づきを解説しています。心のバリアをなくして「バリアフリー」の社会を作るためにはどうしたらいいかを考えます。心のバリアフリーを知り、身につけて行くために大切な5つのステップも学びます。このシリーズは他にも、みんなのバリアフリー②『障害のある人が困っていることを知ろう』みんなのバリアフリー③『みんなのできるバリアフリー活動』があります。



▲公益社団法人 生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 沖縄県協会様(1.22)
【写真前列 左から4番目】公益社団法人
生命保険ファイナンシャル
アドバイザー協会 沖縄県協会
会長 石川 綾子 様
【写真前列 右から1番目】同会 副会長 我如古 開 様
【写真前列 左から1番目】同会 事務局長 大城 真実 様
【写真前列 左から2番目】同会 会計長 平 こそえ 様
【写真前列 左から3番目】同会 幹事 倉光 めぐみ 様
【写真後列 左から1番目】同会 幹事 村松 秀憲 様
【写真後列 左から2番目】同会 幹事 篤坂 昌幸 様
【写真後列 右から2番目】同会 幹事 大茂 珠子 様
【写真後列 右から1番目】同会 幹事 大城 百合子 様
【写真前列 左から2番目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

- カラオケ南優灯 様
- 山内 良章 様

編集後記

大河ドラマを観て和装に憧れる今日この頃。みなさんのチャレンジしてみたいことは何ですか？

現在南城市つきしろの自宅兼研究所にて工芸教室も開いており、つきしろは漆の乾きが良く、作品づくりにとっても適しているんです。「作家になる前に職人になれ」そう伝えながら、後生の育成にも力を入れています」と語る津波さん。津波さんの言葉から、すぐれた作品を生み出すだけでなく、自分自身より優れた人材を育成することも大切であることを学びました。

2012年にはねりんピックかりゆし美術展 工芸の部で厚生労働大臣賞を受賞(作品名:乾漆椰子皮朱塗花器)するなど、多くの賞を受賞されており、沖縄の審査員も務めています。

津波敏雄さん(81歳)は高校の木材工芸科を卒業後、漆芸留学のため香川県高松へ。そこで多くの作家から工芸の知識・技術を学ばれたそうです。

表紙の絵



作品名 乾漆螺鈿花器
作成者 津波 敏雄さん